

各文章の括弧内の選択肢 (a~c) から正しいものを一つ選び、マークシートに記入しなさい。M1-M10 はマークシートの番号に対応する。

- M1) 聴覚受容器であるコルチ器官は、感音部である【a. 内耳 b. 中耳 c. 外耳】に存在する。
- M2) 聴力検査において骨導聴力は正常であるが、気導聴力で顕著な聴力損失が認められた。この患者は【a. 感音性難聴 b. 伝音性難聴 c. 混合性難聴】である。
- M3) 中耳筋反射は自己の発音に対して、【a. 先行して b. 同時に c. 遅れて】生じる。
- M4) 基底膜に生じる進行波の振幅が最大になる場所は、音の周波数が低いほど基底膜の【a. 基部（正円窓側） b. 中央部 c. 先端部（蝸牛頂側）】へ近づく。
- M5) 蝸牛内電位は、【a. 蓋膜 b. 血管条 c. 網状板】の辺縁細胞に存在するイオンポンプによって生じる電位と拡散電位との差によるものである。
- M6) 有毛細胞の不動毛には【a. 電位依存型 b. リガンド依存型 c. 機械刺激依存型】チャンネルがあり、この開閉により有毛細胞の受容器電位は音刺激に対して遅延なく応答する。
- M7) 聴覚の一次求心性ニューロンの約 95%は、【a. コルチ柱細胞 b. 内有毛細胞 c. 外有毛細胞】からシナプス入力を受ける。
- M8) 耳音響放射検査は、【a. 蝸牛 b. 鼓膜 c. 耳小骨】の病態把握に利用される。
- M9) 下図は、聴性脳幹反応の正常波形である。ピークⅢの発生源は【a. 下丘 b. 外側毛帯 c. 上オリブ核群】である。
- M10) 下図のピークⅥの発生源は【a. 一次聴覚野 b. 蝸牛神経核 c. 内側膝状体】である。

